

大学教育の潮流

就業・出産・育児・介護しながら学ぶ — 長期履修学生制度 —

中山 啓子◎文
text by Keiko Nakayama

長期履修学生制度とは

近年、科学・技術がめざましく高度化しています。社会は、そのような科学・技術を理解し応用・発展させることができる人材を求めています。そのためには、長い期間をかけて学び、また研究の指導を受けることが必要となりました。また、生涯にわたって学習を続けようという方たちが増えてきています。

一方で、大学を卒業する二十歳台前半には、出産・育児など家庭内で多くの時間を割くことが求められる場合もみられます。また、一度は就業したもののさらに学ぶことを希望する方も多くおられます。東北大学大学院では学ぶことに十分な時間を割けない方たちを対象として、長期履修学生制度を設けています。

長期履修学生制度の目的

長期履修学生制度の目的は、職業などに従事しながら大学院で学ぶことを希望し、個人の事情によって修学に専念できない社会人の方たちの、学習したいという意欲に応えるために、多様な柔軟な学習機会

を提供することです。この長期履修学生制度を積極的に活用し、多くの社会人が学んでいます。

企業などの常勤の職員や自営業の方、出産・育児・介護等を行う必要のある方など、長期履修を希望する方から申請があります。審査の上、長期履修学生として認

定されます。長期履修学生は、標準の修業年限の倍の期間を限度として在学することができます。在学期間が長くなります

が、授業料は標準の修業年限に納付する総額と同額を在学期間中に均等に分割して納付します。すなわち、在学期間が倍になれば、一年間に納付する金額は半分に なります。

綿密な計画による 充実した学生生活

私たち医学系研究科を例に説明しますと、まず申請にあたって、就業の状況、育児・介護等の状況と同時に、指導教授に相談の上、講義などの受講計画、研究計画を立てます。指導教授とともに綿密な計画を立てることが、最終的な目標である学位取得を確実なものとする大きな足がかりとなります。

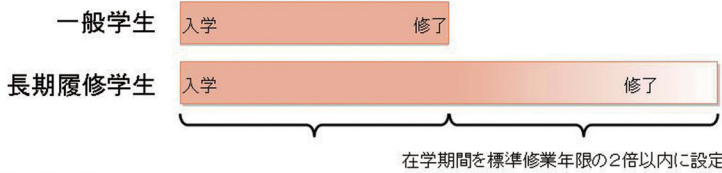
計画の変更をすることなども、指導教授・アドバイザー教員の助言を受けて行うことができます。

ロールモデルとしての 長期履修学生

二〇一一年十二月現在で、医学系研究科では、七十四名の大学院生（在学生の九%）がこの制度を活用し、社会人として就労しながら、または育児・介護をしながら、熱意をもって研究に打ち込んでいます。

このような社会人学生が一般の学生と交流することは、一般学生のロールモデルとなり、一般学生もまた生涯にわたり勉強を続けることの意義を知ることとなります。教員もまた学生を通じて社会のニーズを知ることができ、期待に応えるよう努力を続けています。

修業年限（在学期間）



授業料



また、全ての大学院生は、指導教授の他にアドバイザー教員を選びます。特に長期履修学生には、よりよい履修方法への変更や、論文研究の進捗に対するきめ細かなアドバイスが与えられる環境作りをしています。入学時の履修計画にそって研究が進捗しているのかをチェックし、もしも研究の進捗が思わしくない場合には履修計画・研究



中山 啓子（なかやま けいこ）
1960年生まれ
現職／東北大学大学院医学系研究科 教授
専門／分子生物学、細胞生物学
関連ホームページ/
<http://www.devgen.med.tohoku.ac.jp/index.html>